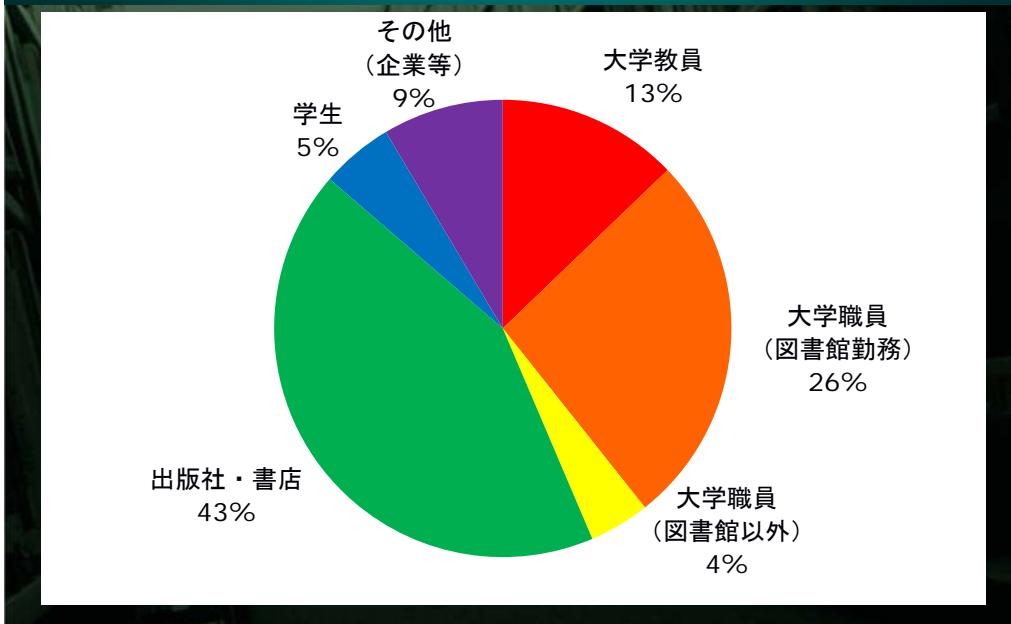
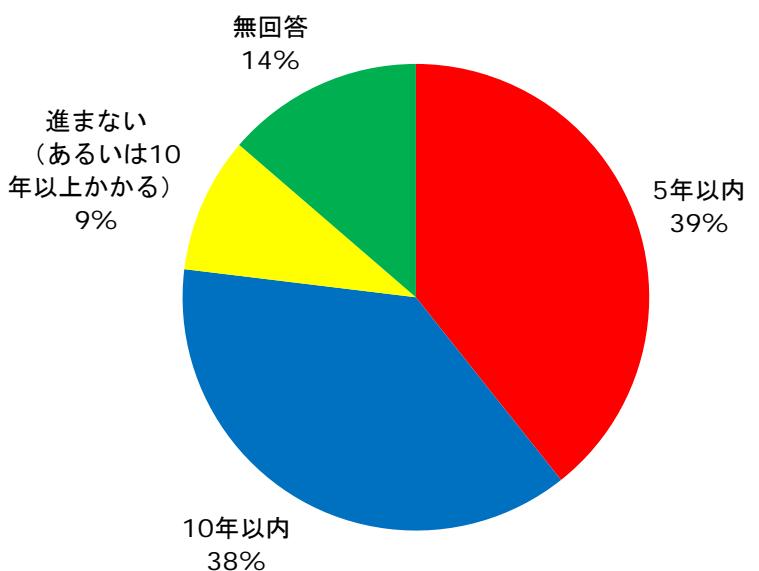


シンポジウム参加申込者の概要
(2月21日21時現在:117名)



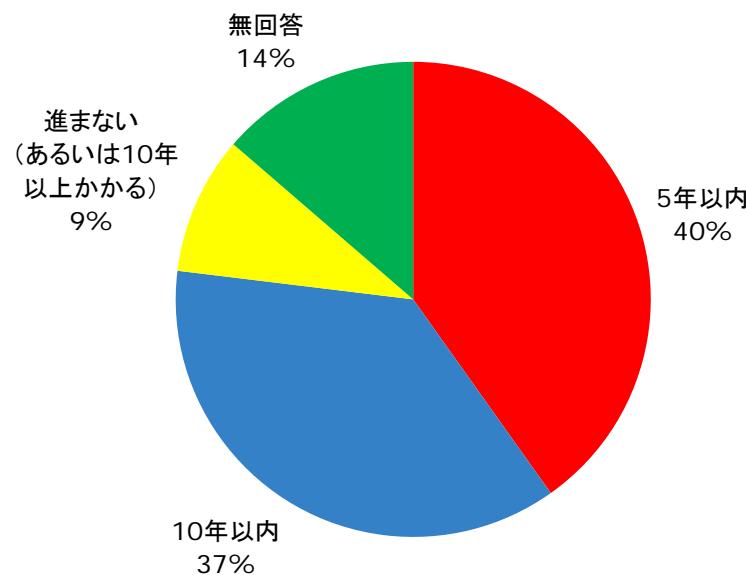
問① 大学の教科書の電子化(書籍コンテンツの電子的提供から授業環境の電子化)の実現時期



大学の教科書の電子化を拒む要因・ハードル

- ❖著作権などの権利関係の問題
- ❖出版社の反対等、既存の出版流通の既得権益の構造
- ❖デバイス・ハードウェアの統一問題・普及状況
- ❖「紙」の書籍への愛着
- ❖紙の本の利便性(書き込み等が柔軟)
- ❖電子教科書を用いた教授法の開発・共有
- ❖電子教科書への情報化投資の財政問題
- ❖分野間の格差、大学間の格差、学内コンセンサス
- ❖大学教員の抵抗感・意識
- ❖大学によるサポート体制の不足
- ❖数式や化学式などの日本語以外の表記の規格の統一

問② 「大学教育の情報化」(LMS, e-learning, e-portfolio, webinarなど)の達成時期



「大学教育の情報化」を拒む要因・ハードル

- ❖ 大学教員の意識・意欲
- ❖ 大学教員の情報技術・情報リテラシー能力の不足
- ❖ 大学教員が既に多忙すぎること
- ❖ 大学内のサポートスタッフの不足
- ❖ システム作成後のコンテンツの開発・維持・管理の問題
- ❖ 大学・分野によって差のある予算構造
- ❖ 設備・システムのコストを負担できるかどうか
- ❖ 個人情報の扱い
- ❖ 使いこなせない・馴染めない学生への「ケア」
- ❖ 新しい方式による単位認定方式、学習評価方法の必要性
- ❖ 対面式教育、同級生と集って授業を受けることの重要性

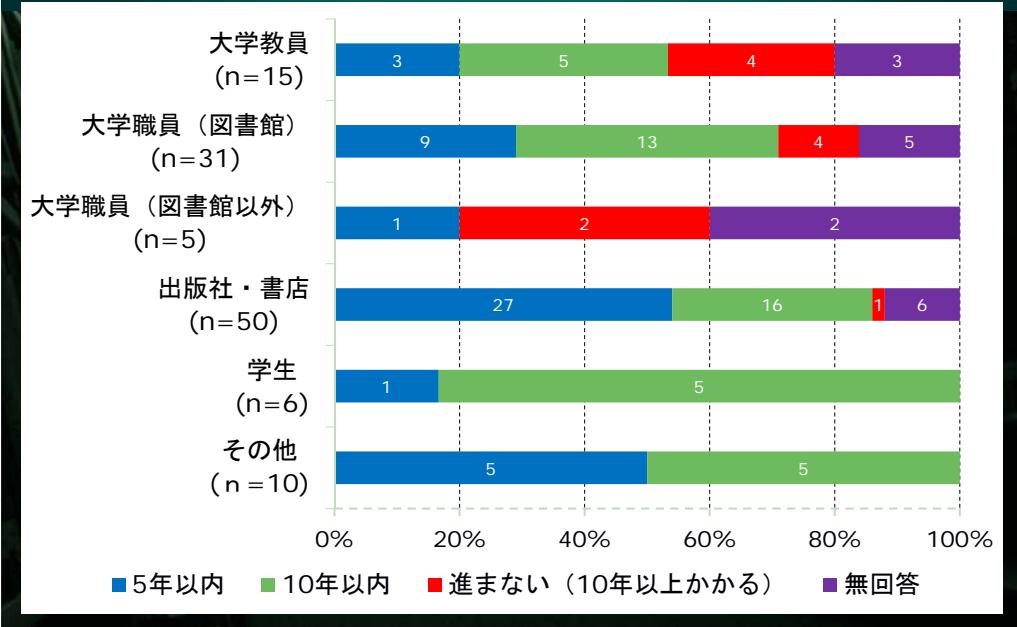
問③「アカデミック・リンク」への関心

- ❖ 「学習」への図書館の関与の仕方
- ❖ 「アカデミック・リンク」の教育改革へのインパクト
- ❖ 「アカデミック・リンク」とその成果物が開放されるものとなるのかどうか
- ❖ 電子化された参考図書の活用事例
- ❖ 維持発展の可能性
- ❖ 教材開発
- ❖ 大学内での関係部局との連携協力の在り方
- ❖ 人材育成、ネットワークの構築
- ❖ 電子書籍に変わったあとの、大学と図書館の今後の在り方の予測

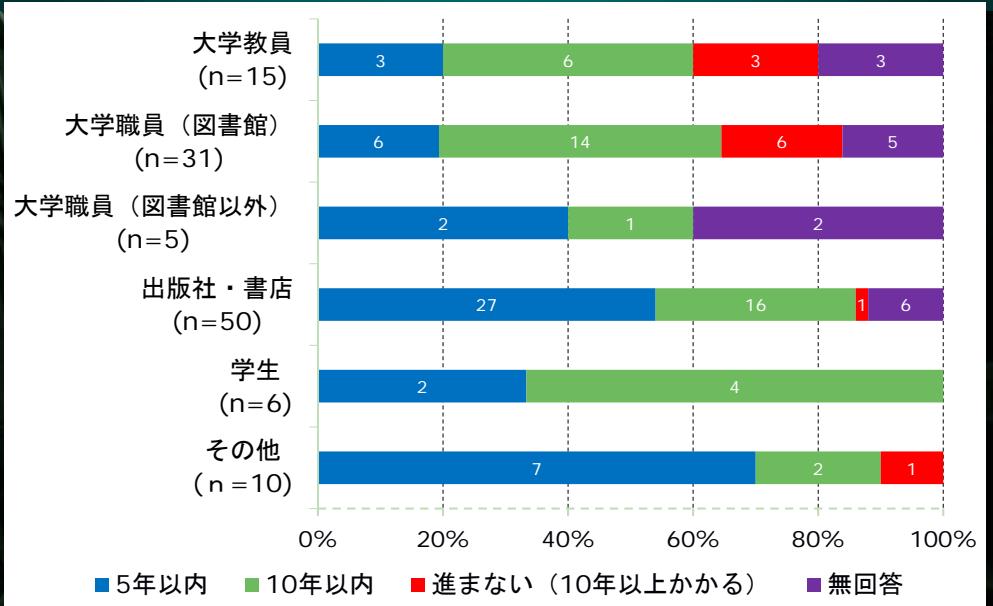
問④ 参加申込者が関心をもっている内容

- ❖ この問題への行政の考え方・取り組み
- ❖ 教科書を出している出版社の考え方
- ❖ 教科書の電子化による授業形態の変化
- ❖ 「大学教育の情報化」が進展する中での大学図書館・大学職員の役割の変化
- ❖ 中小零細規模の出版社の存在意義、生き残る可能性
- ❖ 国内の電子出版の状況と今後の動向
- ❖ 電子書籍系端末の授業での活用
- ❖ 授業で使うコンテンツの図書館・出版社の関わり
- ❖ 電子書籍の市場性、
- ❖ ビジネスとアカデミックの共存可能性
- ❖ 教科書のデジタル化で内容が常にアップデートされること

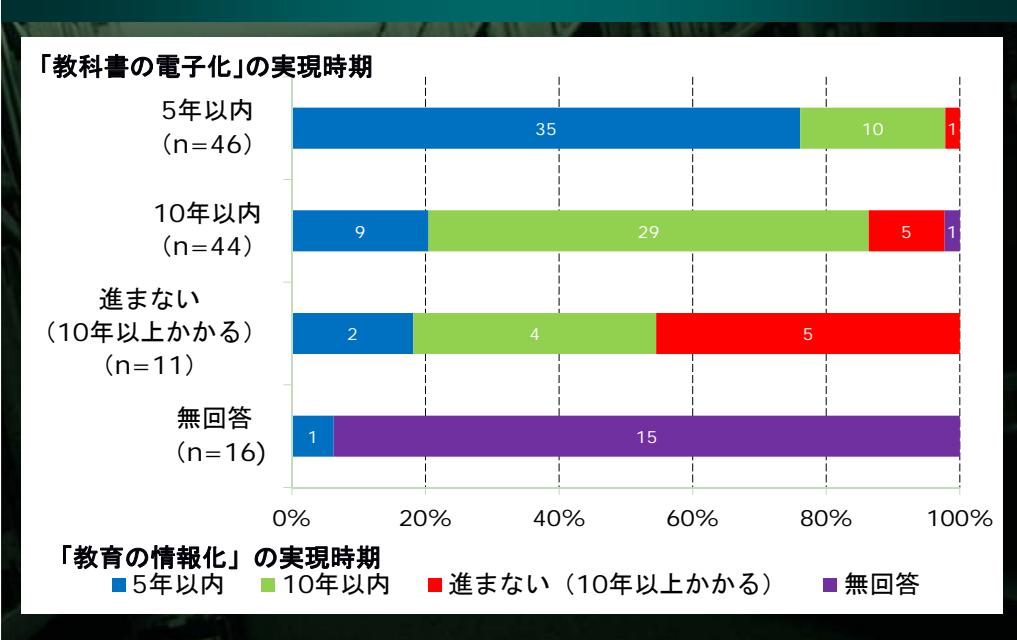
属性別にみた「大学の教科書の電子化」の実現時期



属性別にみた「大学教育の情報化」の実現時期



「大学の教科書の電子化」の実現時期 × 「大学教育の情報化」の実現時期



属性 × 「教科書の電子化」× 「教育の情報化」(n=117)

